愛媛資料ネット会報　第2号　2003年4月10日

編集・発行　芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（愛媛資料ネット）
〒790-8577　松山市文京町3　愛媛大学法文学部寺内研究室気付
TEL　089-927-9317　Eメール terauchi@LL.ehime-u.ac.jp　郵便振替01690-8-5497

タイムカプセルを開けた　秋山家資料保存活動報告

木山義次郎（今治史談会）
秋山　孝夫（今治史談会）

昨年度に引き続き平成14年度に入っても、秋山家資料の整理・保存活動に従事する。メンバーも多少入れ替えがあったし、週2回のペースも1回に落ちたが、高齢者パワーを発揮してパッキンケース約65箱、合計すると12,000点の資料整理をともかく完了した。最初に立てた目標、①決して無理しない、1日3時間以内、②責任をもってやり遂げること、を確認しながらコツコツと、まるで蟻がものを運ぶようなスローペースの作業であった。

集まったメンバーは平均年齢70歳を超えるロートルばかり、「我々でも若い者に負けないものがある。それは自由な時間だ。」などと、うそぶきながら、珍しいものを誰かが発見すると、作業は一時中止、鳩首会談して話し合う。特に古文書に出会うと直には解読できず、コピーして持ち帰り解読してくる熱心さ。インターネットで資料を検索して関連の知識を仕入れてくる律儀さ。元の職業も様々な人の集まりには、自分が体験したことのない話に華が咲き、遅々として作業の進まないこともしばしば。特にコーヒーブレイクは楽しい一時だった。

こう云うと遊んでばかりいるようにも聞こえるが、決してそうではなく、各自割り当てられたものを確実に処理していったのである。書籍などは多少数が多くても易しいが、書簡や1枚づつの書類などは整理が難しい。差出人別、日日別、表題ごとに整理し記録する根気の要る作業だった。あと5箱ぐらいを残して、もう止めようかと言うことになりかかったが、もう一度寺内教授、永井先生に整理してもらうとなかなかどうして、屑紙のようなものの中にすばらしい資料を発見し、プロの力量に感服する。結局平成14年4月以降の作業量は次のようになった。13年度と合計すると総計70回、これが我々の誇りとなった。

14年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
回数	4回	3回	5回	5回	4回	4回	4回	3回	2回	34回

12月24日に最終日を迎え、お互いに長い期間の苦労をいたわりながら、作業は終了したのである。この間ご多忙にもかかわらず寺内教授、永井先生には適切なアドバイス、目録作りのノウハウなど多大のご指導を賜り、心から御礼申

し上げます。

さて、秋山家資料の主人公は秋山平太氏。明治15年生まれ、河南高等小学校から愛媛師範で学んだ教育家である。明治34年大三島高等尋常小学校の教師を振り出しに、大正から昭和初期に越智郡、周桑郡の小学校の校長を歴任、その後周桑郡役所に勤務、退職後は郷里富田村の産業組合(現在の農協)理事、村会議員などを勤めた。従って残された資料は教育関係約1,000点、役場関係のもの約1,500点に及ぶ。さらに平太氏の男2人、女5人のご子様たち関係のもの約3,000点が残っている。卒業証書や通知簿などありきたりのものだけではなく、試験の答案、宿題、習字や絵画の作品などもあり、教師側と生徒側両面の資料が残っているのが特徴で、まさに「教育者一家が残してくれたタイムカプセル」である。これらを通して我々は、明治・大正・昭和初期の学校生活の実際を知ることが出来、さらに当時の農村の生活の模様を窺い知ることが出来るのである。

発見された資料をいちいち紹介する余裕はないが、少し説明しよう。明治から昭和にかけての小学校、中学・女学校の教科書は一目見るだけで当時の人達にとっては思い出深いものであろうし、各地へ旅行された時入手されたと思われる絵はがきの数々、特に古い今治の様子がうかがわれる写真などは、歴史的な意義をもつ。大正から昭和初期の商店の広告ビラ、DMなどは現存しているお店の人に見せると大変喜ばれる。今治中学でのストライキの顛末、小学校の運動会プログラム、映画館の広告ビラ、昭和初期の恐慌時代の就職活動を記した書簡、旧制高校在学中のご子息からのお金の無心など古きよき時代の記録の他に、戦時中のものも多く、松山空襲のためタブロイド版しか発行できなかった当時の愛媛新聞(しかも余白には「当分の間当村へ1枚しか来ないので早く回覧してください」とある)や地元の青年たちが出征する時の記録など暗い世相を反映するもの、一転敗戦後の世相を反映して、NHKラジオの英会話読本(平川唯一先生の「カムカムエブリボディ」)、当時のカストリ雑誌などなど、まさに明治から昭和の「タイムカプセル」である。この様な貴重な資料の保存に一役買えたことは、我々の貴重な体験であり、長時間かけて作業をやり遂げたことは我々の誇りであると思う。

今年2月6日、寺内教授にお手を煩わしてマスコミ各社への記者発表を行い、テレビ、新聞で報道された。我々の作業が日の目を見たわけである。しかしながら、実際にこの資料を拝見できたのは限られた人だけであり、今治史談会会員でも見たことのない人は多い。それで次のステップとしてはこの「タイムカプセル」を一般市民に発表したいと考えている。先日史練会で発表に際してはお手伝いしたいと言うお申し出もあり、話題性のある有意義なイベントに盛り上げたいと思っている。

最後に今後残された問題はこの大量の資料をどの様に保管し、将来に残していくかである。当初、今治市へ保管場所を依頼したがけんもほろろに拒否されている。昨今この様な資料保存の重要性についての議論が高まっており、市の態度も変化が起こると確信するものであるが、箱物を作ることはともかく、今

までの施設を使った地元資料の保存、保管ができることを熱望する。2年後には市町村合併が待ち構えているが、この時昭和30年代の合併に際しての資料保存についての無理解な失敗の二の舞だけはどうしても避けなければならない。

この作業に従事して我々にでも出来ると言う自信と、困難な作業をやり遂げた誇りを持って、次は日高の有田家文書に挑戦しよう。

愛媛県文化交流施設整備基本構想を読んで

柚山俊夫（愛媛古文書研究会）

2003（平成15）年2月25日、愛媛県文化交流施設整備基本構想が加戸知事に報告された。筆者は、愛媛資料ネットが2002（平成14）年7月14日、愛媛県美術館で開催した「『資料保存と文書館』学習集会」において、「愛媛における史料保存活動と文書館問題」と題して報告する機会を与えられた。そこで、この基本構想や図書館専門部会議事録（愛媛県のホームページで閲覧できる）を読んでの感想を述べてみたいと思う。

まず、この基本構想で、県立図書館と県立公文書館を別組織としている点を、高く評価したい。2001（平成13）年末の「愛媛県文化交流施設整備構想基本方針概要版」では、県立図書館が「公文書館の機能を併せもつものとする。」とされ、図書館の一部門として公文書館が「併設」されるという基本方針であった。「『資料保存と文書館』学習集会」ののち、2002（平成14）年8月に県文化交流施設整備構想検討委員会の図書館専門部会が開かれ、愛媛資料ネット代表の内田先生から意見を聴取した。14年度末の基本構想において、公文書館が県立図書館への「併設」から独立組織へと転換したのは、従来あまりみられなかった県の柔軟姿勢を示すものであろう。

公文書館を独立組織とした点を高く評価するが、その他は、今後の課題である。基本構想には、機能・運営・その他留意事項が示されているが、いずれも概要であって、今後、その構想をどのように進めていくか、具体的な内容・方法の検討が課題となろう。そもそも今までの検討委員会は「図書館専門部会」であって、「公文書館専門部会」ではない。県政の基本理念「共に創ろう誇れる愛媛」のコンセプトのもと、全国から衆知を集めて、改めて県立公文書館検討委員会を設置して、具体化をすすめてもらいたい。２１世紀の公文書館・文書館のモデルケースとなる「誇れる」公文書館づくりを進めてほしい。

今後の課題の一例をあげれば、基本構想に「2,500㎡程度」と明記された公文書館の規模のことがあげられる。この規模については、今後計画実施段階において「精査を要する」と留保つきではあるが、「讃岐（香川県公文書館）の半分ほどか！」というのが素直な感想である。伝え聞くところでは、他県の既設館の平均値の規模だとか。「共に創ろう誇れる愛媛」というのは、全国平均を目指すことではない。既設館は、大半が狭隘さに苦しみ、館の活動に支障が出ている。そのような他県の実情を、県の検討委員会事務局は把握していないのではないか。せめて、新設される公文書館の、次の「建て替え移転」時期が、

建物の耐久期限と同じぐらいになるよう、面積を確保してほしいものだ。そうでないと、1975（昭和50）年に開館した県立図書館が、20年で満杯になったのと同様の状況が、県立公文書館開館から近い時期におこることになろう。

＊二つの図書館対比（91･7･8愛媛新聞による）

	愛媛県立図書館	徳島県立図書館
蔵　書　数	約４４万冊	約６０万冊
年間購入予算	約３４００万円	約１億円
職　員　数	２０人	３３人
書誌電算化	×	○
館外から情報検索	×	○

最近批判が寄せられる県立図書館についていえば、すでに1991（平成3）年7月8日付け愛媛新聞に、「収容オーバー目前の県立図書館」と題する特集記事（松友武昭記者執筆）が掲載されている。徳島県立図書館と比べた上の表を掲載して県立図書館の充実を訴えている。それから10年以上たった今、愛媛県立図書館のきびしい状況がどれだけ改善されたであろうか。ようやく新館構想（しかし実現時期未定）が動き出したのである。道後湯築城も10年かかった。公文書館も、恒例の「厳しい財政事情」などの理由で最低限の規模にしたなら、早晩、図書館と同じく「狭あい化が著し」い状態になり、10年間放置されるのであろうか。そうなれば、本来、将来に伝えなければならない記録･行政文書が、「書庫が満杯なので」廃棄される、「収蔵庫が満杯なので」地域史料の寄贈･寄託を渋る、といった事態が想定されよう。県立公文書館の設置当初に、かなり広大な書庫・収蔵庫を備えた施設ができるよう、強くお願いしたい。それが、結局、行政投資の無駄を省くことになるのであるから。

さて、公文書館は県民が活用するために設置されるのであるから、次の課題は、館の専門職員を養成することであろう。公文書館の第一の機能は、設立母体（県立公文書館の場合は県庁）からの継続的な文書受け入れ・整理・保存・活用である。この機能は、博物館・図書館では代替できない機能である。他県の既設館では、職員を公文書担当・古文書担当に分けている例が多いが、このうちの公文書担当職員の養成が喫緊の課題である。というのは、古文書などの地域史料に関しては、博物館学芸員その他、文書整理の経験者がいるが、行政文書の整理は経験者がおそらくいないからである。

県庁その他の行政機関が大量に作成する文書すべてを、公文書館で保存し後世に残すことはできない。先行する他県の例によれば、全行政文書の５パーセント程度を選択して保存するという。どの文書を後世に残すのか、必要にして十分な文書を「選ぶ」作業は、専門職員でないとできない。学校から出向してきて3･4年で交代する「調査員」や「教育専門員」が勤まる仕事ではない。退職公務員や民間活力、ボランティアでは、責任ある判断ができない。行政経験と歴史・文化の各分野に広い知識をもつ専門職員の養成が急がれる。この基本構想は、今までの各種の文化施設建設構想と同じく、施設を運営する専門的な人

材の育成には意を払っていないようにも読める。開館前後に急造してできることではない。早くから各種の中央研修、他県の先進館での長期研修など研鑽を積み、これまでの県庁文書群の保存整理について研究し、行政文書の整理実務が本当にできる人材を養成してもらいたい。

以上、公文書館の規模と専門職員の養成について述べた。他にも言いたいことはあるが、それは昨年7月の「『資料保存と文書館』学習集会」において報告した「愛媛における史料保存活動と文書館問題」の報告資料を参照していただきたい。

次に、基本構想に触れられていない問題について述べておきたい。それは、県立図書館の上にある、県立博物館と県立歴史民俗資料館の将来展望である。両館の将来展望について、筆者が知る限りでは、公表されていないようである。仮に県立図書館が道後に移転した場合、この両館はどうなるのであろうか。

腑に落ちないのは、基本構想に「文化交流拠点」を形成して、「文化をテーマとして人々が集い、知識や情報が蓄積・発信され、鑑賞・研究・発表などの多彩な活動が展開され、人と文化が行き交う中核施設を配置」するとうたっているのに、両館については記述がないことである。道後のような観光地ならば、県立図書館や公文書館などより、県立博物館と県立歴史民俗資料館を移転・拡充して、集客を図るほうが自然な考え方のように思われるが、いかがであろうか？

また、基本構想によれば、県民文化会館南側民有地に、建ぺい率一杯で建てた場合でも、5階～6階建て以上にもなるような建物を建設して、図書館・公文書館・国際交流センター・文化活動支援型多機能ホールを収容するようである。文化活動支援型多機能ホールで和太鼓演奏会をしても、図書館や公文書館が静寂を保つような防音施設が本当にできるのだろうか。杞憂であることを祈っている。

さて、市町村合併が一段落すると、次に道州制が来る、と言われている。そうなれば、「愛媛県」は廃止され、四国は一つの行政区画になるであろう。後世の人々は、「愛媛県」が存在した時代のことを調べるために、この公文書館を訪れるであろう。歴史研究・郷土研究だけでなく、権利の確認であったり、先行事例や事件の調査であったり、さまざまな目的で、多様な人々が公文書館を活用することになるのである。わたしたちの未来の子孫へ、充実した記録遺産を残すことこそが、将来、当地域が特色あるアイデンティティを保ちながら発展する原動力になることを信じて疑わない。行政文書や古文書など、記録遺産の保存と活用は、未来の人々へのすばらしい贈り物なのである。

記録遺産をきちんと後世に残すよう努力することは、わたしたちの歴史を大切にするということである。そこから、愛媛の歴史や文化に対する愛着や誇りが生れてくる。県政の基本理念「共に創ろう誇れる愛媛」が、単なるお題目で終わることのないようにしたいものである。

(2003・3・31)

「古文書解読基礎講座」へ講師派遣

今治史談会主催の「古文書解読基礎講座」に内田九州男（愛媛大学法文学部）を講師に派遣した。日程は11月4日～11月25日の間で、月曜日午後6時30分から8時まで、4回。受講生は26名。ほぼ全員が、最後まで受講した。

講座の形式・進行は以下のとおり。

①第一回目（11月4日）。どのようにして古文書を読むか、その具体例の提示、辞書の紹介、テキストの配布並びに受講生への割り当て（各自が自力で解読文を用意するため）。テキストは『慶安元年　伊予国知行高郷村数帳』（愛媛県立図書館蔵）の一部。

②第二回目（11月11日）。受講生各自が作成した前回割り当て分の解読文（コピー）を受講生全員に配布。一人一人その解読文を口頭発表。講師が発表毎に正解を示す（板書も行う）。新しいテキスト配布と受講生への割り当て。テキストは『藁屋忠助江申渡并被下覚』（大坂城関係史料）の一部。

③第三回（11月18日）。同上。併せて今回配布のテキストから採取した「古文書用字例集」を配布し、このテキストに頻出する、文字（「御」「候」等）の用例を解説。テキストは江戸時代の『万家通用増補文章大全』の一部。

④第四回（11月25日）。進行は第二回目に同じ。全員の解読分の点検を終えて終了。

＊受講生全員が毎回必ず発表するように割り当て、かつ一人一人の解読文が全員に行き渡るようにして、解読文の点検を全員参加でできるように心がけた。

（内田九州男）

調査・整理活動、その他

◆松山市神田町で明治期の引札、古地図、絵葉書、教科書など大量の資料がみつかり、3月から調査・整理作業を始めました。

◆松山市三津で見つかった資料の整理作業を計3日、愛媛大学図書館に寄託された資料の整理作業を計20日行いました。

◆『今治市・曽我部家資料目録』（A4判、24頁）を刊行しました。これは愛媛資料ネットが芸予地震後最初の資料救出活動を行った曽我部家の資料目録です。

◆今年の2月に「秋山家資料」の記者発表を行いました（2/7愛媛新聞、2/8朝日新聞、2/9読売新聞）。資料の発見から整理作業が終わるまでの経過を秋山・木山両氏にまとめていただきました。

◆昨年7月に「資料保存と文書館」学習集会を開催しましたが、文書館をめぐるその後の動向を柚山氏にまとめていただきました。

◆本年度の愛媛資料ネットの活動の一部には愛媛大学教育改善経費が使用されています。

（寺内浩）

愛媛資料ネット活動日誌

２００２年

・１０月２日
重信町田窪で調査活動（１名）

・１０月７日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１０月１０日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（３名）

・１０月１１日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１０月１７日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（３名）

・１０月１８日
今治市桜井で調査活動（１名）
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１０月２９日
松山市持田町で調査活動（１名）

・１１月４日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１１月１７日
今治市別名で資料の目録作成作業（８名）

・１１月１８日
松山市神田町で調査活動（２名）
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１１月２２日
愛媛大学法文学部で資料の目録作成作業（２名）

・１１月２５日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（５名）

・１１月２７日
愛媛大学法文学部で資料の目録作成作業（２名）

・１２月４日
愛媛大学法文学部で資料の目録作成作業（６名）

・１２月１１日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（６名）

・１２月２４日
今治市中日吉町で資料の目録作成作業（６名）

２００３年

・1月９日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（２名）

・1月１３日
今治市中日吉町で資料の整理作業（４名）

・１月１６日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（２名）
・１月２２日
今治市中日吉町で資料の整理作業（２名）
・１月２３日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（２名）
・１月３０日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（２名）
・２月３日
今治市中日吉町で資料の整理作業（３名）
・２月６日
村上今治史談会会長宅で「秋山家資料」の記者発表
・２月２０日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（５名）
・２月２１日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（２名）
・２月２５日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（５名）
・３月１日
松山市神田町で資料の調査・整理活動（１０名）
・３月４日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（５名）
・３月１１日
今治市拝志で資料目録の作成・確認作業（８名）
・３月１３日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（５名）
・３月２０日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（５名）
・３月２４日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（１名）
・３月２５日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月２６日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月２７日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月２８日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月２９日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月３０日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）
・３月３１日
愛媛大学図書館で資料の目録作成作業（４名）